

第4回（仮称）小牧市立第一こども園建設検討委員会

日時	令和5年6月5日（月）午前10時30分～午前11時30分	
場所	小牧市役所本庁舎4階 402会議室	
学識経験者	中部大学工学部建築学科 教授	中村 研一
	名古屋経済大学人間生活科学部教育保育学科 特任教授	長江 美津子
各種団体関係者	大山保育園 保護者代表	池田 稔
	第一幼稚園 保護者代表	山口 海
	第一幼稚園 保護者代表	石橋 佳織
	ふれあいの家あさひ学園 施設長	長谷川 寛
	第一幼稚園 園長	松野 麻香
欠席委員	大山保育園 園長	近藤 江里子

※傍聴者 1名

【事務局】

おはようございます。定刻となりましたので、ただいまより「第4回（仮称）小牧市立第一こども園建設検討委員会」を開催いたします。近藤委員は、本日、欠席との連絡をいただいております。

なお、本日の傍聴者は1名です。初めに、こども未来部長の川尻よりご挨拶を申し上げます。

【事務局（川尻）】

改めましておはようございます。こども未来部長の川尻と申します。本日は大変お忙しい中、急遽、お集まりいただきましてありがとうございます。検討委員会に先立ちまして、私から4回目の委員会を開催することになりましたことを、一言お詫び申し上げます。

第一こども園の基本構想・基本計画の修正につきましては、第3回の委員会におきまして、委員長に一任され、修正内容を事務局と委員長で確認した上で完成する運びになっておりました。

しかしながら、完成した基本構想・基本計画について、市長に報告する中で、委員の皆様のご意見を集約した結果とはいえ、施設規模が約1600㎡から約2500㎡となり、建設費が当初の予定より約3億円から4億円程度増えることは、市の財政上、大変厳しく、安易に延床面積を増やすことは建設コストの増大につながるため、コスト意識をしっかりとって限りある予算の中で、真に必要な機能を整理しつつ、施設規模を見直すようにとの指示を受けました。

本来であれば、最初に予算をお示しして、予算の範囲内で皆様のご意見をどのように反映できるのかを議論すべきでしたが、結果といたしまして、皆様の貴重なお時間を浪費させてしまうことになりました。このように、事務局の進め方に至らない点があり、皆様に大変ご迷惑、ご心配をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。

この一連の事情も含めまして、委員長に今後の進め方をご相談した上で、改めて委員会を開催し、皆様に修正内容をお示しする必要があると判断させていただき、本日の会議を開催することになりました。

この後、修正しました事項について詳細を説明させていただきますが、本市では、この4月から0歳児から2歳児までの保育料を無償化したこともあり、保育需要が高まることが予想されておりますので、今後、第一幼稚園、大山保育園の建て替えだけでなく、老朽化している市内の公立保育園のうち12園程度を、スピード感を持って建て替え・改修・統廃合することを考えておりますので、莫大な建設費用が必要になります。

また、保育園だけでなく、米野小学校をはじめ、小学校の建て替えも計画されております。限られた予算の中で、未来ある本市の子どもたちのために多くの予算が必要となりますので、皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

1 あいさつ

【事務局】

それでは中村委員長にご挨拶をいただきたいと思っております。

【中村委員長】

委員の皆様、今日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。川尻部長から説明がありましたように、市の方からもう少し予算に関して検討したいという依頼がありましたので、資料を準備させていただきました。今日の会議の運びとなりました。

とは言え、これから長く使われる施設ですので、この委員会は、ある程度理想を追求する場だと思っておりますので、皆様のご意見を伺いたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。協議事項に入ります前に、本年4月の定期人事異動によりまして、大山保育園と第一幼稚園の園長がかわりましたので、本委員会の委員にそれぞれ新しい園長を任命しております。紹介につきましてはお手元に配布している委員名簿をもって代えさせていただきます。

また事務局にも職員の異動がありましたので、転入者の紹介をさせていただきます。

それでは事務局の転入者の紹介をさせていただきます。

こども未来部長の川尻です。

同じく、こども未来部次長の伊藤です。

幼児教育・保育課、指導保育士の森島です。

担当主査の加藤です。

同じく担当技師の太田です。

今年度はこのメンバーで第一こども園の建設事業を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

それでは本日の資料の確認をさせていただきます。事前に送付させていただきました「次第」が1枚、資料1としまして、「(仮称)小牧市立第一こども園建設基本構想・基本計画(修正案)」、1ページから45ページの資料です。資料2としまして、「基本構想・基本計画(修正案)の修正内容の比較表」です。資料3としまして、「(仮称)第一こども園の面積・コストの考え方」、資料4としまして、「施設規模の想定、配置計画」、資料5としまして、「建設コスト・経済性」です。

資料は以上ですが、不足等はございませんか。

それでは次第の2「協議事項」から次第の3「その他」までの進行を中村委員長にお願いしたい

と思います。よろしくお願いいたします。

2 協議事項

(1) (仮称) 第一こども園建設基本構想・基本計画の修正案について

【中村委員長】

次第に従いまして議事を進めたいと思います。次第の2「協議事項」です。「(仮称) 第一こども園建設基本構想・基本計画の修正案について」、説明をお願いします。

【事務局】

それでは「(仮称) 小牧市立第一こども園、建設基本構想・基本計画の修正案について」をご説明させていただきます。

まずは、第3回目のご意見を踏まえた修正内容の確認について説明いたします。資料1につきましては、前回の委員会で皆様にご意見を踏まえて作成した修正案となっています。具体的な修正内容をお示ししたものが、資料2の修正内容の比較表となりますので、こちらの比較表により説明をいたします。

資料の右側には前回お示しした計画案の内容を記載しています。左側には皆様のご意見を踏まえて修正した内容を記載しています。主な修正内容は1ページの上段、(1) 定員の想定として、2歳児の定員を6名増やし、全体として228名から234名の定員に増員しました。

次に1ページから4ページにかけて、各諸室等の仕様について修正しています。1ページから2ページにかけて、全体共通事項として、防犯システムの導入、ランチルームや図書室を将来的な保育需要に備え、保育室や打合せスペースなど、多目的に活用できるよう配慮することとしました。

また、乳児室については、1階に配置することとしました。

3ページをお願いいたします。遊戯室の配置について、乳児のお昼寝に配慮し、乳児室との位置関係に配慮することとしました。

調理室については、食育の一環として、全ての年代のこどもが調理風景を見学でき、調理の匂いも体験できるように配慮することとしました。

ランチルームは、地域との交流活動や会議室としても利用できるよう配慮するため、図書室とともに部屋の名称を多機能スペースとし、括弧書きで(ランチルーム、図書室等)としました。

医務室は、職員室内に配置し、職員が園児の様子を見ながら執務や電話対応ができるように配慮することとしました。

4ページをお願いします。子育て支援室・一時預かり室は1階の配置を検討すること、園庭については、3歳未満児が安心して遊べる空間の確保に配慮すること、駐車場については、混雑を緩和する対策として、敷地北東部に屋根付きの乗降スペース、車寄せを検討することとしています。

ここまでが前回の委員会で皆様からいただいたご意見を踏まえた修正となります。

続きまして、施設規模の見直しと、それに伴う修正内容の確認を説明いたします。資料3をお願いいたします。「(仮称) 小牧市立第一こども園の面積・コストの考え方について」です。

第一こども園の施設規模につきましては、資料1の34ページに記載しておりますとおり、公立の幼保連携型認定こども園の建設事例から、定員1人当たりの延床面積の平均値10.35㎡を参考にしつつ、定員234名に10.35㎡を乗じて約2500㎡に設定しておりました。

しかしながら、基本構想・基本計画における第一こども園の施設規模について、市長と合意形成を図る中で、安易に面積を増やすと建設コストも増大するため、コスト意識をしっかりとって、真に必要な機能、面積を精査し、施設規模を再考するよう指示を受けました。

これを受けまして、施設規模の考え方について、統合の対象となる大山保育園と第一幼稚園、それぞれの園舎の延床面積の合計値をベースに、第一こども園に必要な諸室と、その面積を積み上げる方式により再検討いたしました。

資料3を1枚めくっていただき、A3横の表をご覧ください。左側に第一こども園、真ん中に大山保育園と第一幼稚園、右側に第一こども園と定員が同等のみなみ保育園を記載しています。

これらの園について保育室等、職員室等、トイレ、共用の区分ごとに各部屋の面積の比較を行いました。

乳児室、保育室については、定員が異なるので単純に比較することはできませんが、小計①の行で比較しますと、第一こども園は625㎡、大山保育園と第一幼稚園の合計は515.16㎡となっています。遊戯室や多機能スペース等の面積についても小計②の行で比較しますと、第一こども園は380㎡、大山保育園と第一幼稚園の合計は257.4㎡です。

また職員室、職員の休憩室、医務室、会議室、更衣室の面積についても、小計③の行で比較しますと、第一こども園は172㎡、大山保育園と第一幼稚園の合計は180.45㎡となっています。第一こども園の面積が若干少ない結果となっていますが、定員に対する職員数を考慮すれば十分に面積を確保できていますし、みなみ保育園、99.6㎡と比較しても問題ないと考えています。

調理室、トイレ等も同様に、第一こども園において、面積は十分に確保できています。共用部については「※」で記載をしておりますが、「大山保育園と第一幼稚園の共用部の面積の合計」を両園の定員の合計で除した数に、第一こども園の想定定員を乗じて算出しております。

資料3の1枚目に戻っていただきたいと思います。このように検討した結果、表のとおり、延床面積は1857㎡となりました。表の⑤、児童1人当たりの面積を見ていただくと、第一こども園の7.93㎡に対し、大山保育園と第一幼稚園の合計値である4.93㎡と比べ、3㎡改善されています。

また、表の⑥、職員1人当たりの面積、これは、職員室の面積を職員数で割った数値ですが、第一こども園の1.5㎡に対し、大山保育園は1.1㎡のため、0.4㎡改善されています。

第一幼稚園については、定員180人のところ、現在の在園児は52人であり、職員は園児数に応じて配置されていることから、この項目の比較対象にしておりませんが、第一こども園と定員が同等である「みなみ保育園(定員239人)」と比較をしても、児童1人当たりの面積と職員1人当たりの面積、共に改善されています。

このように、施設規模を2500㎡から1857㎡に変更したとしても、児童の教育・保育環境の視点、職員の働きやすさを視点において、必要な面積を確保することはできるものと考えております。

したがって、基本構想・基本計画における第一こども園の施設規模は1857㎡をベースに考えさせていただいております。

次に資料1の34ページから38ページまでと、資料4を比較しながらご覧いただきたいと思っております。

第一こども園の施設規模を変更することに伴い、資料1の34ページから38ページまでを、資料4にそのまま差し替える形で修正したいと思っております。修正内容としましては、延床面積の算出方法

を、「公立の幼保連携型認定こども園の事例」からではなく、「大山保育園と第一幼稚園をベースに、各諸室に必要な面積を積み上げる方法」に変更し、延床面積を約 2500 m²から約 1860 m²に変更しました。これに伴い、「公立の幼保連携型認定こども園の事例」を削除し、資料 1 の 35 ページの室面積表を資料 4 の面積表に修正します。

資料 1 の 36 ページの配置計画につきましては、面積が変更になると施設規模にも影響が生じるため、資料 4 の裏面のとおり、配置計画図をゾーニング図のようにぼやかした表示に変更します。

37 ページから 38 ページにかけて記載がある平面計画については、面積変更に加え、前回の委員会において遊戯室や子育て支援・一時預かり室の配置について見直す必要があるというご意見をいただいたことを踏まえ、平面計画は削除することといたしました。

次に資料 1 の 42 ページから 44 ページまでと、資料 5 を比較しながらご覧いただきたいと思えます。先ほどと同様に、資料 1 の 42 ページから 44 ページまでを資料 5 にそのまま差し替える形で修正したいと思います。主な修正内容は延床面積を 2500 m²から 1860 m²に変更したこと。またそれに伴い概算建設事業費を修正し、建設費を約 10.27 億円から約 8.1 億円に修正しました。

また環境に配慮した設備、ZEB の導入につきまして、市として、今後、新築事業に導入していく方針を示していることから、その旨、分かるような形で修正しています。

説明が長くなってしまい大変恐縮ですが、事務局からの説明は以上となります。

【中村委員長】

ただいまの説明に対してご意見があれば発言をお願いいたします。

いろいろな項目にわたっていましたが、大きく 2 つに分かれていて、1 つは前回いろいろ皆様にご提案いただいた点の修正内容、もう 1 つは施設規模に関することだと思います。

まず、資料の 2 に関しては、前回の内容が正確に反映されていると思いますが、改めてご覧になって、修正点があれば、お聞かせください。

資料 2 に関してはいかがでしょうか。長江先生、大丈夫ですか。

【長江副委員長】

前回、気になったところをお話しさせていただいて、それが反映されているので、大丈夫だと思います。

【中村委員長】

他の委員の皆様も大丈夫そうですかね。よろしいですか。

それでは資料 2 に関してはこのまま進めていただきたいと思えます。

次に、資料 3 以降、これまで想定していた 2500 m²というのが、予算的に厳しいのではないかとということで、各部屋に必要な面積を積み上げて、今回、1857 m²程度の規模を目安としたいということです。

まずは、この資料 4 の面積表のまとめ方について、資料 1 の 35 ページの表と比較していただき、気になることがあればお聞かせください。

乳児室、保育室、遊戯室に関しては変更がありません。

ランチルーム、図書室が合体された形で多機能スペースという形になって、先ほど資料 2 の説明にもあったと思いますけれども、面積が少しだけ減っているということになります。

もともとのランチルーム、図書室、それから多目的室の 3 つが合体して、それぞれの機能を持ち

ながら、使いやすい部屋にしていくという趣旨になるかと思えます。

職員室に関しては50名ということで、若干増えています。調理室に関しては、もともと170㎡だったのが120㎡に減っていますが、これで十分機能するというところでよろしいでしょうか。

【事務局】

先ほど資料3の2枚目、他園との比較表をご覧いただいたと思いますが、一番右側に記載してある「みなみ保育園」は第一こども園と定員の規模が同等であるため、「みなみ保育園」の面積を参考にしつつ、120㎡あれば調理室としては機能するだろうと考えて設定しました。

【中村委員長】

なるほど。定員はほぼ同等で、みなみ保育園は約110㎡なので、120㎡ということで十分機能できるのではないかということですね。それぞれの部屋面積に関して変更があるというのは、それぐらいですよ。

【事務局】

その他、更衣室について、女性は当初35㎡で計画をしておりましたが、10㎡減らしまして25㎡、男性は当初10㎡を計画しておりましたが、3㎡減らして7㎡としています。

こちらについては、市役所職員の更衣室のロッカーの大きさや、着替えのスペースを考慮して、第一こども園の職員数は50人を想定しておりますが、女性は25㎡、男性7㎡程度確保すれば、スペースは十分に足りると思っております。

それから、乳児用のトイレについて、当初25㎡を2室で50㎡で計画をしておりましたが、みなみ保育園と比較し、1室当たり5㎡減らした形で20㎡を2室で40㎡とし、10㎡ほど減らしております。

また、大きく面積を減らしている部分としては、玄関を当初150㎡で計画しておりましたが、35㎡減らして115㎡。それから共用部分の廊下、階段、収納倉庫について、みなみ保育園をベースにしながら、第一幼稚園と大山保育園を合わせた定員と、第一こども園の想定定員を考慮し、廊下、階段は320㎡程度、収納倉庫は100㎡程度減らしています。

【中村委員長】

資料3を見ると、みなみ保育園と比較した場合、ほとんどがみなみ保育園よりも多い数値になっているので、若干面積は減りますが、実用上、問題ないのではないかということですね。

比較対象が保育園になっているのは、これまでこども園の実績がないからということになるのでしょうか。

【事務局】

市内に私立の認定こども園はありますが、公立の認定こども園は今回が初めてのため、保育園の事例しか把握できていません。

【中村委員長】

もともと資料1の34ページにあった最初の施設規模の想定というところで、いろいろ新しいこども園の事例を調べていただいて、この定員に対しての延床面積の比率の表がありますけれども、結構余裕のあるところが多くて、一番少なくとも8.83㎡という数字になっています。今回は7.93㎡ということになっています。面積的なゆとりがどれぐらい計画に影響するかというのは、想像しにくいところです。

委員の皆様、いかがでしょうか。かなり面積が減っているところもあります。実際には部屋の面積は確保されているので、提示された面積表に従った計画でも実用上は全く問題ないはずだということで、今回進めてよろしいでしょうか。それとも、面積表のこの部分はもう少し余裕が必要ではないかなど、今の時点でお気付きの点があれば、お聞かせいただければと思います。

【長江副委員長】

調理室について、定員数が同等のみなみ保育園と比較したという話ですが、実際に、みなみ保育園の調理室を見たうえで、職員の仕事のしやすさなどを確認しましたか。

【事務局】

みなみ保育園の調理室につきましては、私ども、この4月に実際に調理現場を確認しています。調理中は外から見るだけですが、調理器具の位置、調理員の動線等々を見ましても、現在のみなみ保育園の調理室、約110㎡ですが、問題なく調理業務を行うことができていました。120㎡であれば余裕かと言いますと、程度の問題もあるとは思いますが、十分だと考えております。

【長江副委員長】

調理員は、短い時間の中でたくさんの調理をしなくてはいけないので、狭いとか、ストレスの原因になってもいけないと思い、お聞きしました。ありがとうございました。

【長谷川委員】

見直しの計画では、保育室等の部屋については変化がないということでしたが、先ほど長江副委員長が言われたように、調理室の面積が50㎡小さくなっています。当初、調理室で計画していた調理現場の見学とか、匂いがするとかについて、変更や縮小、やれなくなるというものは特にありませんか。

【事務局】

資料1の40ページをご覧くださいませでしょうか。諸室の仕様ということで、ちょうど真ん中やや上に調理室の仕様・配慮事項を記載しています。食育の一環として調理の風景が見られる、あるいは匂いを感じるということについては、面積規模によって変化があるとは考えていません。

ただ、IHの調理器具を入れるだとか、調理の動線、また衛生面を配慮した食材庫等々の配置につきましては、詳細の設計の中で組み立てる必要があると思っております。

また、例えば、手づくりのおやつなど、食育の一環に絡めることにつきましては、調理室、あるいは多機能スペースを使って実施できると思っております。

【長谷川委員】

ありがとうございます。実際に設計が始まると動線の配慮だとか、特に教室については感染症対策で換気が非常に重視されているため、排煙窓や空調を使いながら上下の空気を入れ替えるなど、試行錯誤しながら対策をしています。今後の設計の中で、新しい感染症対策というものが大きな課題になってきますし、新しい施設としてどのように取り組んでいくのかというところを研究、検討していただきたいです。各部屋の面積は十分確保されているということですので、配置だとか動線を考慮し、感染症対策も十分検討のうえ、設計に反映していただき、より良いこども園になるように考えていただければと思います。

【中村委員長】

今の話は、39ページの各諸室等の仕様の全体共通事項の中に内容を少し加えさせていただくとよ

ろしいと思います。3番目に「自然採光や通風も考慮した設計」とありますので、もう一步踏み込んで感染症対策も含めた換気も重視するよという記載をするとよろしいでしょうか。

【長谷川委員】

そうですね。換気がうまくいくと省エネにもなります。

【中村委員長】

もちろんそうですね。ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

【池田委員】

施設規模の話ですが、共用スペースの収納や倉庫の面積がだいぶ減っていますが、これで足りるのでしょうか。今、第一幼稚園さんがやってみえるような絵本アート、図書の貸出制度なども含めて、置くところは十分に確保できるでしょうか。大山保育園についても、園舎の中や教室の中とかに物を置くスペースをつくったりして、先生が一生懸命、物の上げ下ろしをされています。

頭上とか、高いところに物を置くことも結構ありますので、地震のときに落ちてくる恐れもあるので危ないです。あとは、手の届きにくいところに物を置いたりしている場面を何回か見掛けるので、落下や転倒の危険性とかも考慮しているのか、安全が考慮されているのかを教えてください。

【事務局】

安全面を考慮した収納スペースの確保について、具体的な仕様は設計段階で詰めていく形になります。現状、倉庫が不足しているというお話は伺っていますので、できる限りスペースを確保していきたいと考えています。安全面や機能面につきましては、設計段階でしっかりと考えていきたいと思っています。

【池田委員】

ありがとうございます。

【長江副委員長】

2点あります。1点は、収納倉庫のスペースです。面積が3分の1ぐらいに減っていますが、保育園、こども園では季節に応じていろいろな物を出したり、しまったりすることが多いです。それも結構大きな物だったりするので、3分の1にしてしまっても大丈夫なのかなと思います。

四季折々、ひな祭りのお人形であったり、夏であったらお昼寝の物だったり、本当にかんりの量があると思いますので、どこかを削らなくてはいけないということは分かりますが、心配な点です。

もう1つはランチルーム、図書室です。多機能スペースになったことで有効活用できていいかなと思います。ただ、ランチルームは、いろいろな年齢のお子さんが集まって給食を食べるとい、異年齢交流の場にもなると思いましたが、120㎡では狭いのではないかなと思います。

例えば、3歳児から5歳児までの子が一堂に会食する場合、ランチルームとして機能するのかわか心配です。ランチルームがあればそれに越したことはないですが、ランチルームという名前を挙げなくてもいいのかなと思います。残念ではありますが、そう思いました。

【中村委員長】

多機能スペースをランチルームで活用しようとした場合、ちょっと狭いのではないかなということですね。

【長江副委員長】

そうです。ランチルームとして子どもたちがトレーを持って動いたりするには、スペースが狭いと思います。また、図書室として使う場合、図書を一年中出しっぱなしにして、季節によって絵本の入れ替えをするなど、子どもたちに絵本に興味を持ってもらえるように、貸し出しとか、いろいろな活用をしてほしいと思うと、やはり 120 m²では足りないのかなと思います。

【中村委員長】

私が気になったのは、面積表では多機能スペースは 60 m²が 2 室になっているので、1 階と 2 階に多機能スペースが分かれてしまうと、1 室 60 m²でできることは限られてしまいますので、むしろ使い勝手が悪いのかなという気がしました。

120 m²を一体的に確保して、その中で多様な使い方ができるように考えた方が、この多機能という言葉が活きるのではないかなと思います。

【長江副委員長】

ランチルームを使うのはお昼、または、おやつ時間なので、それ以外の時間帯はいろいろな使い方ができると思います。特に、こども園は、子育て支援に注視するというか、重きを置いているところがあるので、地域のお子さんとか、子育て支援の場にも活用できるといいと思います。

例えば、多機能スペースと遊戯室を隣り合わせに配置するとか、空間、スペースを上手に使えるといいなと思います。

【中村委員長】

もう 1 つの多機能スペースがどんな機能を持つのか、ある程度想定しておく必要があると思います。

【長江副委員長】

そうですね。ランチルームのことを置いておけば、多機能スペースと遊戯室があれば、いろいろな活用ができると思います。

【中村委員長】

ランチルームという言葉があるか否かは大きな違いですね。

【長江副委員長】

子どもたちが座って食べるだけではなく、配膳があって、そこから動くことを考えると、狭ければぶつかり合ったり、お茶をこぼしたりすることもあるので、ランチルームとして活用していくのであれば、余裕があったほうがいいのかなと思います。

【中村委員長】

なるほど。松野委員、ランチルームについて、いかがですか。

【松野委員】

たくさん的人数でと考えると、長江副委員長が言われたように、スペースが少ないのかなと感じます。

【中村委員長】

そうですね。池田委員、いかがですか。

【池田委員】

延床面積が減った関係で、ランチルームを多機能スペースとして 2 つに分けなければならないの

でしょうか。ワンフロアに一体化するのは難しいのでしょうか。

【事務局】

多機能スペースについて、面積表の記載の仕方が悪かったので事務局のイメージが上手く伝わっていないと思いますが、今、皆様がいらっしゃるこの会議室のように、広く全体でも使用でき、間仕切りを使用すれば部屋を2つに分割できるスペースを考えています。

【池田委員】

では、この2部屋のよう多機能スペースはつながった2部屋と考えることができますね。

【中村委員長】

今の話であれば、先ほど私が申し上げたように、現状の表記では60㎡を2室、別々の場所に配置すると解釈してしまうと思うので、面積表上、1室で120㎡と記載した方が分かりやすいです。

【事務局】

分かりました。

【長江副委員長】

私は多機能スペースが2室という理解で話をしていました。すみません。

【中村委員長】

ランチルームとして使うときと図書室で使うときは時間帯がずれると思いますので、必ずしも間仕切りをしなくてもよいと思いますが、設計のときに考えればよいと思います。

他にはいかがでしょうか。

私から面積に関してお話しします。駐車場をピロティでつくるという話が、以前から何度も出ていました。濡れないで乗り降りできるとか、敷地を効率よく使えるのではないかとというのがその理由です。そのピロティは、厳密に言えば、建築確認申請上、面積に入ってしまうので、床面積が増えることとなります。1860㎡という面積を厳密に守ろうとすると、ピロティはできないということになってしまうので、半外部的なピロティ部分の面積は1860㎡から除外し、純粋に内部空間のみの面積の合計であることを明確に記載することにより、計画の自由度がより高まると思います。

そうでなければ、ピロティだけで面積を使ってしまうので、計画が成り立たなくなり、ピロティは論外ということで、設計業者が検討をしにくくなると思います。

資料1の34ページにあるように、第一こども園の事例を調べていただき、個々の詳細な平面計画までは分からないものの、一番少ない延床面積の比率でも1人当たり8.83㎡という数字がありますので、これに近づけられると良いと思います。もともとは2500㎡でしたので、2000㎡ぐらいまでは許容して、倉庫、階段、廊下などのスペースにもう少しゆとりが取れるような計画になると良いと思いますが、建設コストに大きく関わることなので、事務局にお任せするしかないと思います。

【長江副委員長】

今の委員長の発言と同じですが、豊田市の事例で1人当たり8.83㎡という認定こども園があります。三河方面の保育園や幼稚園に行くと、どこも全体的にゆとりがあって、広いです。尾張方面に目を向けると、狭いように感じます。そのため、小牧市近辺だけの比較ではなく、予算的な制約もあるかもしれませんが、子どもたちが生活する場所については、極力、ゆとりがあるように考えていただきたいです。

【中村委員長】

ありがとうございます。ほかにはよろしいでしょうか。

【石橋委員】

予算の都合で面積を削らなければいけないというのは、すごく分かりますが、結局、数字に左右されて、これまで皆さんで話し合ったこと、ゆとりがあるとか、自然光が入りやすいとか、そういう根本的なところが覆ってしまうことを心配しています。

予算とすり合わせて、一体どういうものが出来上がるのか不安です。面積など細かいことは分かりませんが、そういったところが気になります。

【中村委員長】

心配になりますね。今後、設計業者が決まれば、設計案についてこの委員会で議論することになりますので、その際に、皆さんで話し合ったことが反映できているか確認することになると思います。

【中村委員長】

それでは、基本構想・基本計画につきましては、本日委員の皆さんからいただいた意見を踏まえて事務局で修正していただき、事務局と私で確認した上で、完成ということによろしいでしょうか。それでは、そのように進めさせていただきます。

次に移りたいと思います。次第3、その他について事務局からお願いします。

3 その他

【事務局】

それでは次第の3、その他といたしまして、今後の予定についてご説明をいたします。

本委員会はこれまで4回にわたって開催をさせていただき、基本構想・基本計画の策定にかかる検討は本日をもって終了となります。委員の皆様におかれましてはご多忙のところ、また、急な4回目の開催というところでご協力いただきありがとうございました。

今後、この構想を基に設計業務の事業者選定の作業に入ります。公募により、基本設計、実施設計の事業者を行いまして、秋ごろに事業者の選定を行いたいと考えております。設計業者が決まった後、設計内容について皆様にご意見をいただくために、再度委員の皆様にお集まりいただきまして、建設検討委員会を開催する予定です。詳しい日程が決まりましたら、改めてご連絡をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

【中村委員長】

次回の建設検討委員会までは少し間が空きますが、基本設計、実施設計の業者が決まりましたら開催されるということです。

それでは本日の議事につきましては、全て終了しましたので、事務局に進行をお返しします。

【事務局】

委員の皆様、長時間にわたりましてありがとうございました。事務局の不手際により、施設規模について見直しをする必要が生じ、再度、皆様にお集まりいただくことになってしまったことにつきまして、重ねてお詫び申し上げます。

それでは、第4回建設検討委員会を終了いたします。皆様、ありがとうございました。